

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第8回まちづくり部会 議事録

日時 令和5年2月27日（月）13時30分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）

日野委員、成田委員、太田委員、川西委員、須賀委員、工藤委員
（事務局）

堀井部長、中島参与、近間総括主幹、蓬田主査、井上次長

【議事録】

○部会長 皆さんこんにちは。時間となりましたので、始めたいと思います。「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第8回目となりました。前回休まれた方もおりますので、はじめにその内容を振り返りますが、前はもう一方の部会、教育環境部会の議論のまとめについて情報提供を受けました。その後、まちづくり部会で実施してきた意見交換会の結果やこれまでの議論を振り返りまして、部会としての議論をどのようにまとめていくのか、その方向性について協議しました。

その結果、この部会としては、まちづくりへの影響を考え、登別中学校の統合に反対すること、学校存続のためには、地域活性化策に取り組む必要があることを確認し、その方向性で議論をとりまとめることを確認いたしました。

本日は、前回の議論を踏まえて、議論のまとめ案を作成しましたので、その内容に関して協議し、可能であれば、本日、まちづくり部会としての結論をまとめたいと思っております。

それではさっそく会議次第2の資料説明について、事務局より、よろしく願いします。

○事務局 （事務局より資料に基づき説明）

○部会長 ありがとうございます。事務局より、「(1) まちづくり部会における議論のまとめの方向性について」説明がありました。内容としましては、前回話した内容をまとめたものとなっておりますので、よろしいかなと思います。この内容についてはよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○部会長 特に異論は無いようですので、次に協議に入りますが、いま説明のあった方向性に沿って議論を進めていくということで、この部会としては、この地区のまちづくりへの影響を考え、登別中学校の統合に反対する立場をとるということを基本にしていきたいと思います。ただ、生徒数が減少している現実がありますので、学校存続にはこの地区として地域活性化に取り組み、生徒数を増加に向かわせることが必要となります。このため、議論のまとめとしても、地域活性化に取り組む必要性に言及するというので、この点に関しても前回確認しておりましたので、そうした内容も踏まえて、「まちづくり部会の議論のまとめ(案)」を作成しました。その内容について、具体的な文言も含めて説明いたします。事務局、よろしくをお願いします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局ありがとうございます。ご意見、ご質問はありませんでしょうか？

○委員 統合には反対し、地域活性化に関し別のテーブルで議論するという内容でまとめるということですが、例えばすぐに地域活性化に取り組んだとしても、その効果が現れるのは何年も先になると思います。そうした時に、何をもって生徒数の減少に歯止めがかかっているか否かを判断するのか。具体的に言えば、何年後に何人増えれば、生徒数の減少に歯止めがかかっていると判断するのか。そのあたりはどうなのでしょう。

○部会長 なかなか難しい点があるかと思いますが、事務局、どうでしょうか？

○事務局 教育委員会としては、中学校の場合には1学年2クラスというのを学校規模の目安としております。このため、教育委員会として統合の是非を判断する場合には、これがひとつの基準になります。今後、地区別検討委員会としては、まちづくり部会と教育環境部会の議論のまとめを持ち上げて、委員会本体で結論を出すことになり、その際にも生徒数増加の目安に関し議論になる可能性はあるものと思いますが、教育委員会としては、あくまで1学年2クラスを基準に考えていくことになります。

○部会長 教育環境部会としては、令和7年度を目途に統合という結論を出していますので、まちづくり部会として、統合に反対し、地域活性化の取組を行うという結論を出すことに対しては、いつまで待てばいいのかという議論があるかもしれませんし、はたして納得してもらえるかはわかりません。教育環境部会の議論は、教育委員会の基準を前提としているので、教育環境部会とまちづくり部会の間で、どこまで詰めることができるのかは難しいのかもしれませんが。これまでも何度か話しましたが、私がPTAをやっていた時には、15年くらい前になりますが、1学年40人前後で、1学年あたり1クラスか2クラスという状況だったと思います。それが15年かけて、1年に1人ずつ減ってきたような状況ですので、ここで急にそれを挽回できるかといえはなかなか難しいところはあるかと思えます。

○委員 さらに言えば、例えばカルルス温泉小学校や札内小学校は、複式学級であることはもちろん、1年生から6年生までで6人しかいないような学校だったわけですが、それはそれで存在意義はあったと思いますので、そのあたりも検証しながらやっていくということも必要かと思えます。例えばカルルス温泉小学校の運動会では、1年生から6年生までが一緒に走るわけですが、体力の差がありますので、ハンデを付けるわけです。また、人数が少ないですので、学校の先生や地域

の人も一緒に走るわけですが、それが地域活性化に繋がっていく部分もあるので、必ず1学年2クラスじゃなくても、たとえ複式学級であったとしても、存在意義はあるということを最後に付け加えておきたいと思います。

○部会長 少人数の学校でも存在意義はあるということを付け加えてはということですが、皆さんいかがでしょうか。まちづくり部会としては、統合に反対し、生徒数を増やして学校を存続させるために、地域活性化に取り組むという方向性でまとめるということでしたので、少人数でもいいということになると、それと矛盾することになるようにも思えますが。

○委員 小規模でいいとは言っても、一定の人数を前提にしなければならないと思います。複式になってもいいということになると、保護者の立場からすれば、何の対策もとらないのかということになってしまいます。そうしたこともあって、統合に反対するとしても、地域活性化に関し何らかの対策を打たなければならないということで話してきたものと思います。それが複式ありきということになってしまくと、今までの議論とは違ってくるのかなと思います。そうした意味でも、教育環境にもある程度目配せをしながらの話になるのかなと思います。

○委員 それは1学年2クラスが必要ということですか。それとも、1学年1クラスでもいいということでしょうか。

○部会長 教育面に踏み込む内容になりつつあるのですが、まちづくりの面から考えると、最低限の人数を維持しながら、学校を存続していくべきではないかということかと思いますが、その最低限の人数というのをどこに設定するのか。その部分で教育面の基準と折り合いがつけられるのかどうか。

○委員 教育環境を考えると、1学年1クラスでいいのではないのでしょうか。

○部会長 教育委員会としては、中学校の場合、1学年2クラスを基準としているとい

うことでした。それについては、教育に関わることになので。

○事務局 学校規模の基準をどう考えるのかに関しては、教育に関わることですので、それについては、教育環境部会で話し合うことになっています。前回は教育のあり方に関する意見がありましたが、それについては、今回のまちづくり部会の結論には反映させずに、部会での議論終了後に委員会本体で話し合いたいということになりました。

○部会長 意見ということで聞いておきますが、まちづくり部会の結論には反映させずに、それについては、あらためて委員会本体での議論の際に発言いただくということよろしいでしょうか？

(異議なしの声あり)

○部会長 それでは今回お示しした案で、この部会としての議論をまとめるということよろしいでしょうか？

(異議なしの声あり)

○部会長 それではまちづくり部会の議論がまとまりましたので、今後の流れなどについて、事務局よりお願いします。

○事務局 今後についてですが、本日をもってまちづくり部会の結論をとりまとめることができたということで、既に議論を終えている教育環境部会の結論と合わせて、委員会本体に持ち上げまして、委員会としての最終的な結論をとりまとめることになります。今後は、両部会長から地区別検討委員会の会長に、部会の結論をそれぞれ報告していただき、その上で地区別検討委員会の会議を再開することになります。その間の事務作業などを考えれば、委員会本体の会議は4月になるかと思います。なお、これまでまちづくり部会については、部会員の皆さんの都合

を考え、日中の時間帯に設定しておりましたが、委員会本体の委員には保護者の方も多くいらっしゃいますので、夕方の時間帯になろうかと思えます。この点についてはご了承ください。いずれにしましても、詳しい日程等につきましては、決まり次第、書面で皆さんにお知らせします。

○部会長 ありがとうございます。それでは本日でまちづくり部会としての会議は最後になります。委員の皆さんにおかれましては、お忙しいところ、長期間にわたり議論に参加いただきありがとうございます。お疲れさまでした。